

平成21年度 第3回産学官連携戦略展開事業セミナー

知と地域の共生、そして再生 ～香川大学地域連携オープンキャンパス～

平成21年12月2日（水） 15:50～17:30

香川大学 ミッドプラザ

学長挨拶

香川大学長  
一井 眞比古

香川大学地域連携オープンキャンパスの開催にあたりまして、香川大学を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

本日は大変お忙しい中を、本セミナーにお集まりいただきありがとうございます。また平素から香川大学の教育研究活動に、いろいろとご支援をいただいていることをこの場を借りてお礼申し上げます。

本日のセミナーはここミッドプラザでオープンキャンパスの形式で行うことにいたしました。少し狭い会場ですが、香川大学の社会連携活動の在り方を市民の方々も交えて改めて考えるには恰好の場所ではないかと存じます。

さて、国立大学が法人化されまして5年が過ぎました。国立大学の役割については二つのことがよく挙げられます。一つは地域社会における人材養成と学術研究の拠点という意味での、ナショナルセンターとしての役割です。もう一つは地域を支える人材育成の中核及び、知の拠点としての地域の活性化に貢献するリージョナルセンターとしての役割です。

国立大学にはそれぞれの特色を生かした大学づくりが求められていることはご存知の通りであります。香川大学では、その歴史性や、これまでの実績からいたしましても、国立大学のいわゆる第2番目の役割でありますリージョナルセンターとしての役割を強く意識しております。従って、地域性というものは香川大学にとっても非常に大きな、かつ重要なキーワードであると考えております。そのため、地域との関係を重視する基本的姿勢というものは、今後も変わるものではありません。

香川大学では2007年3月に本学のビジョンとして香川大学憲章を公表いた

しました。その前文において、多様な学問分野を統括する、地域の知の拠点としての存在を自覚し、個性と競争力を持つ、地域に根ざした学生中心の大学を目指すというふうに謳っております。

香川大学には、現在、教育学部、法学部、経済学部、医学部、工学部、農学部の6学部とそれぞれの学部の上に乗かっている6大学院研究科に加え、地域マネジメント研究科と連合法務研究科があり、文系と理系のバランスのよい総合大学に発展しております。このような専門分野の構成の中で、世界レベルの研究や地域社会の課題解決に資するような研究について一定の成果を上げていると自負しております。

産学官連携の中で本学の特質を生かすための基盤の充実が求められていると思います。

そういう意味で本日のセミナーでは、ご参加のみなさま方が忌憚のない意見交換を通して、地域社会における香川大学のあるべき姿を考える場となることを期待しております。

最後になりましたが、みなさま方の積極的なセミナーへのご参加によりまして、本日のセミナーが有意義なものになることを祈念して開催の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。